

優秀賞

## 「人との関わり」

糸島市立前原東中学校3年 永谷 斗椰

「人を大切にしろ」「当たり前前を大切にしろ」この言葉は、世界の誰もが一度は、聞いたことのある言葉だと思う。この言葉ほど、たくさんの人間が簡単に発し、実現することが難しいものはないのでなからうか。

私が、この言葉の実現する難しさを、身にしみて感じたのは、2年前の冬だった。それは、とても突然だった。母親から、「パパと前々から話してたことだけど、別居することが決まったから、もうここには帰ってこれないから」あまりにも突然だった。母は泣きながらつげた。何も考えられなかった。父は、何も言わず、ソファでテレビを見ていただけだった。何も言葉がでなかった。私は立ち上がり、逃げこむように、トイレにもつた。涙が止まらなかった。私は落ちる涙をずっと見ていた。数分たち、私はトイレを出た。そして、寝室に行きふとんに入った。そこでも涙は止まらなかった。時間がいくらかたつても寝ることができなかった。そして次の日、父の姿はなかった。私は母に尋ねた。「なんで違うところに住まないかと」すると、母は答えた。「これから大変なこともたくさんあると思うけど、ちゃんと守るから」母はだきしめながら言ってくれた。涙が出た。私はその時に「俺が守らないかん。もお悲しい思いはさせない」と強く思った。そして、私は家を出た。最後に父の顔を見ることはなかった。別居してから、約半年が流れた。薄々気付いてはいたが、あつてほしくないことが起こってしまった。とうとう親が離婚した。いつかはするだろうと分かっていた。しかし、もう一度あの家で一緒に、という気持ちも、捨てることができなかった。私は母を責めた。責めることしかできなかった。本当に悲しかった。そして、父をうらんだ。家族を引きさいた事を。しかし、私は今、父に感謝している。なぜなら、当たり前前の大切さ、親しい人が突然いなくなってしまうことも、私は、今のこの当たり前前を大切に過ごしていきたい。